

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600053		
法人名	株式会社 二千翔		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町4丁目19-27		
自己評価作成日	平成31年2月1日	評価結果市町村受理日	平成31年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0193600053-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0193600053-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成31年2月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念【ありがとう 言われるよりも伝えたい】          人生の先輩たちに、敬意をもって、日々ありがとうと感謝を伝えられるような支援を目指しています。          ご家族様参加の行事は、事業所の都合ではなく、皆様にアンケートを取り、日程や内容を決めています。いつでも足を運びやすいように、近況報告のお手紙や、電話など、全職員がご家族様との関係づくりに努めています。どんな状況になろうと、ここを終の棲家として、安心して暮らせるように、ご家族様にとっても、実家のような心地よさを感じていただけるように、全職員が理念をもとに取り組んでいます。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設13年目を迎えるグループホームほたるは、小学生の認知症キッズサポーター養成講座、交流授業、中学生の職業体験、保育園児の施設行事参加などを受け入れ、利用者地域との繋がりの拡大などを通じて地域貢献に努めています。家族の来訪が多く、事業所行事にも多くの家族が参加し、その中で意見、要望の吸い上げに努めています。また毎月、職員が手書きの通信と写真を家族に送付しています。医療面では協力医、訪問看護師による24時間オンコール体制のもと、看取りにも取り組んでいます。日常のケアにおいては、理念である「利用者を尊敬し感謝する心」を基盤とし、職員間で共有し、利用者の言葉にできない思いを汲み取ることを大切にすると共に、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応に努めています。また代表者、管理者は職員が意見、要望を日常的に忌憚なく言うことができる環境作りに努め、職員同士の関係も良好で働きやすく、長年勤務している職員が多数います。</p>
---

## V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果		項目		取組の成果	
		↓該当するものに○印				↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作成した理念を、来客者や家族にも目につきやすいように玄関に掲示している。また、毎回ではないがミーティングの時等、再確認し、日々のケアに繋げられるよう努めている。	職員全員で考えた理念を玄関に掲示すると共にパンフレットにも掲載しています。採用時には理念について説明し、ミーティング等でも利用者の思いや希望に沿ったケアとなっているか、理念を振り返り確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校の授業の受け入れや、ホームの行事に保育園児の参加で、交流している。	小学生の交流授業、中学生の職業体験、保育園児が事業所の行事に参加し、利用者や地域との繋がり拡大に努めています。また職員が小学校に出向き認知症キッズサポーター養成講座を開催し、地域貢献にも努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の寸劇を加えたキッズサポーター養成講座を近隣の小学校2校で行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	日常の活動や、評価への取り組みを報告し、会議議事録を職員全員が周知している。	行政、地域包括支援センター、家族が参加し、2か月に1回開催しています。利用者状況、運営状況、事故報告、外部評価等を議題とし、同日に避難訓練を行うなど情報交換や問題解決の場となっています。	地域から幅広い立場(民生委員、警察、消防、学校、保育園など)の参加に向けた働きかけを期待します。また議事録にどのような話し合いが行われたかがわかるよう、質疑応答も記載することを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や避難訓練に参加してもらい、協力関係を築いている。	生活保護課担当者来訪時には利用者の暮らしぶりについて伝えています。介護福祉課担当者とは運営推進会議、各種書類提出時等に情報交換を行い、分からないことがあれば随時電話で相談し、助言を受けるなど市担当者との協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会で話し合い、全員が周知している。	マニュアルを整備し、身体拘束廃止委員会で3か月に1回話し合いを行っています。またカンファレンス、ミーティング、内部、外部研修を通して身体拘束に該当する行為とその弊害について学び、職員間で注意しあい身体拘束のないケアに努めています。玄関は家族の同意を得て夜間のみ施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、申し送り、カンファレンスで話し合っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修など、全員が学ぶ機会はず、全員が理解しているとは言い難い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度詳しく説明し、同意書ももらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、面会時・手紙(ほたる通信)などで、意見や要望を聞いている。	職員は家族来訪時に声かけし、意見、要望の把握に努めています。また事業所行事は家族交流の場となっています。毎月、担当職員による個別の手紙と写真を家族に送付し、利用者の近況を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、又はカンファレンス等で話し合っている。	職員は食材、備品、薬、発注の各係を分担し、カンファレンス、ミーティング、面談、日常業務の中で忌憚なく意見、提案を言うことができる環境となっています。職員の希望により車いす対応車、シャワーチェア、災害時備蓄品等を購入しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談し、各自の希望に添えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修への参加で、個々のスキルアップを図れるように努めている。ホーム内での勉強会も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修などで交流はあるが、一部にとどまっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の時間を取り、ケアプランにのせ、実施している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にご家族に施設を見学していただき、話し合いを重ね、不安の解消に努めている。また、ご家族と連携を取り、今までの生活習慣や、これからの要望を聞き、その時に必要な支援ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の情報を基にひとり一人に沿った対応に努めている。また、ご家族と連携を取り、その時々々の希望を聞きながら、必要な支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす者同士として、今の思いや昔の話等をして、時間を作るようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙を書き、普段の様子を伝えると共に、イベント等のお誘いをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時は、落ち着いてお話しできるよう、好きな場所でくつろいでいただけるよう配慮している。また、馴染みの場所へ訪問できるよう努めている。	馴染みの人や場については家族や入居前の担当ケアマネなどから話を聞いて把握し、職員同行で馴染みの商店、金融機関、家族同行で墓参り等へ出かけています。家族、友人、知人来訪時は歓迎しゆっくり話ができるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	安心して暮らせるよう、ひとり一人の性格や相性を把握し、レイアウトを変えたり、トラブルのない様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去してからも来てくださるご家族には、関係が途切れない様、手紙等で交流している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族にも協力してもらい、検討している。	会話だけでなく表情、動作から利用者の思いを汲み取るようにしています。また家族からも情報を得ています。経過記録、カンファレンス、ミーティングを通し職員間で情報を共有し、課題分析を行い、利用者の思いに沿ったケアとなるよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・ご家族・本人・友人等からお聞きし、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセス・経過記録・申し送りノートを活用し、全職員が把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	Eシートの活用。より良い介護計画に努めている。	センター方式の24時間アセスメントシートを活用し利用者、家族の意向を把握しています。毎月全職員でモニタリングを行い、情報、意見を出し合い、さらに担当者会議を経て介護計画を作成しています。介護計画は4か月ごとに見直すとともに状況に変化があれば随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録ファイルを活用し、実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとり一人の希望に添える様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアとして、メイクやセラピーマッサージが定期的に来られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1～2回定期的に往診に来ていただき、受診できている。	全利用者が協力医の往診を受けています。歯科、皮膚科も希望により往診、他は職員、家族が協力し受診しています。訪問看護師も週1回来訪し24時間オンコール体制となっています。医療に関する情報は職員、家族、看護師で共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、個別の訪問以外に、週1回の定期訪問を実施し、24時間体制で医療と相談できる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	カンファレンスに参加し、情報交換し、ご家族も含めて話し合い、早期退院が出来るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	Dr. 訪看とも情報提供を受け、全スタッフで看取りまでできる様努めている。	入居時に指針について説明すると共に「急変時確認書」に同意を得ます。さらに重度化、終末期を迎えた時点で意思を再確認の上「看取り介護についての同意書」を作成しています。職員、家族、医師、看護師で話し合いを重ね方針を共有しながら看取りに取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心臓マッサージの講習を全員が受け、身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災想定訓練を行っている。また、災害時の持ち出し物資を用意している。	年2回、夜間も想定した火災訓練を行い、利用者も実際に避難しています。災害時備蓄品、非常用持ち出し袋を準備し、昨年の地震以降買い足した物もあります。消防設備の定期点検を実施しています。今後、自家発電設備を整備することも検討中です。	火災だけでなく地震等あらゆる自然災害を想定することを期待します。2次避難場所の確保と家族への周知、消防署及び地域住民の避難訓練参加働きかけの継続など協力体制の強化に向けた取り組みを期待します。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基本とし、ひとり一人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けを行っている。	職員はカンファレンス、ミーティングで接遇について学び、トイレ、入浴、着替え時など利用者のプライバシーや羞恥心に配慮した言葉かけ、対応に努めています。記録帳票類も適切に保管されています。面会簿は作成せず経過記録に記載しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる様な会話の提供を心がけ、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人のペースに合わせた生活ができる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容やメイクボランティアを利用し、個々の希望に沿うように支援している。また、季節に合わせた好みの服装を自分で選べるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を発注しているが、好みを聞き、献立を変えたりしている。また、個別に外食する時もある。	献立と食材は業者に発注していますが、利用者の要望を聞き職員が献立を変えることも多くあります。また利用者の身体状況に合った食事形態に配慮しています。季節の行事や誕生日には出前、ケータリング、外食など食事が楽しみとなるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考え、アセスメントシートでも共有し、個々に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に合わせて歯磨きの声掛けをしたり、歯科医師の指導の下、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックで個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう、声掛け・誘導・介助を行っている。	排泄状況をチェックしてパターンを把握し、時間ごとに、あるいはサインを察知して声掛け、誘導、介助しています。時間帯などによりオムツ、パット、パンツを適宜使い分け、できるだけトイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を確認し、食事や飲み物で便秘予防になるよう、常に工夫に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回以上を基本とし、いつでも本人の希望に添えるよう支援している。	午後を中心に週2回を目途とし入浴しています。状況によりシャワー浴、足浴、清拭等も対応しています。希望により同性介助を行っています。入浴を拒否する時は声のかけ方を工夫したり、人を変えています。職員とゆっくり話をしながら入浴しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣を大切に、本人のペースに合わせて、安眠できる工夫を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストをいつでも全員が見れる環境を作り、薬の把握に努め、支援後も変化などに気を付けている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣を考慮し、無理のない様に気分転換を図るよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じての外出、又は、ご家族の協力もあり、支援できている。	事業所前の大きな公園への散歩、コンビニへ買い物など近隣への外出は、職員が付き添い日常的に出かけています。また大型ショッピングセンターや道の駅での買い物など遠方へも出かけています。年間計画は立てず、天気の良い日など状況に合わせて外出し、利用者の楽しみ、気分転換に繋げています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・ご家族の希望により所持している。買い物の際は職員が付き添い、本人が支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的、又は、その都度連絡が取れている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度に気を付け、季節感も取り入れ工夫している。	玄関前、事業所内はバリアフリーで、対面式の台所、2つ並んだ洗面台、広いトイレや浴室に利用者や介護する職員への配慮が表れています。居間は窓が大きく日当たりが良いのですが、光が強すぎないよう配慮し、要所に温度計、加湿器、空気清浄機を設置しています。壁には利用者の作品や写真、季節の飾り等が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いたレイアウト作り。また、一人で過ごせる、一人用椅子も設置し、気ままに過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真等を飾り、心地よく過ごせるよう工夫している。	居室入り口には職員手作りの表札が飾られています。居室はクローゼットが備え付けられ、利用者は使い慣れた家具、仏壇等を自由に持ち込み、写真や作品を飾っています。家具などの配置は利用者、家族と相談し、動線や安全を考慮して決めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスでも自操出来る環境づくり。場所が分かる様に、トイレや居室に表札をかけている。		